

## 「ヨハネ誕生の告知」

ルカ1:5~25

### 1. はじめに

(1) 4つの福音書を並べ、時間順にメシアの生涯を追って行く。

- ① 前回は、2つのメシアの系図を見た。
- ② マタイの系図は、ヨセフの家系
- ③ ルカの系図は、マリアの家系

(2) 3つの告知

- ① ザカリヤへの告知 (ルカ)
- ② マリアへの告知 (ルカ)
- ③ ヨセフへの告知 (マタ)

(3) マタイにある告知の特徴

- ① 公の情報
- ② 天使は、「主の使い」と呼ばれている。
- ③ ヨセフの視点から書かれている。

(4) ルカにある告知の特徴

- ① 私的情報
- ② 天使は、「ガブリエル」と呼ばれている。
- ③ マリアの視点から書かれている。

\* ルカは、マタイにある告知の内容を知っていた。

\* マリアから直接情報を得たか、マリアに近い人々から情報を得たか。

\* ルカはヘブル語(アラム語)の資料を利用している(1:1~4とは異なる)。

\* ルカ1章と2章は、新約聖書の中で最も古いものである。

\* マリアの福音書、バプテスマのヨハネの福音書、などと呼ばれる。

### 2. アウトライン

- (1) 背景(舞台) (5~7節)
- (2) 告知 (8~20節)
- (3) 人々の驚き (21~23節)
- (4) 「約束」の成就 (24~25節)

### 3. メッセージのゴール

- (1) 歴史的枠組み
- (2) 旧約聖書の成就
- (3) 聖霊の働き

このメッセージは、ヨハネ誕生の告知から、福音の始まりについて学ぼうとするものである。

## I. 背景(舞台)(5~7節)

### 1. 5節

「ユダヤの王ヘロデの時に、アビヤの組の者でザカリヤという祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった」

#### (1) 「ユダヤの王ヘロデ」

- ①「ユダヤ」は、広義の意味である。ユダヤ人の土地。
- ②ローマの行政区としては、ユダヤ、サマリヤ、ガリラヤ。

#### (2) ザカリヤという祭司

- ①ダビデによって、祭司制度が確立した。
- ②祭司は24の組に分けられた。
- ③アビヤの組は、8番目に当たる(1歴24:10)。
- ④3つの巡礼祭では、祭司全員が奉仕に当たった。
- ⑤それ以外の時は、毎年、1週間の奉仕を2回行った。
- ⑥当時は、1万8千人の祭司がいたと言われている。

\*750人/組

\*くじに当たる確率。20年×14日×2=560

\*560人は1回は当たるが、190人は当たらないで祭司の仕事を終える。

#### (3) 妻エリサベツ

- ①アロンの子孫。つまり、祭司家系の娘である。
- ②ユダヤ教の伝統によれば、祭司は祭司の娘と結婚するのがいいとされた。

### 2. 6節

「ふたりとも、神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落度なく踏み行っていた」

- (1) パリサイ人との違い。
  - ①人の前での外見的義

- ②神の前での内面的義
- ③彼らは、旧約時代の義人である。

(2) 旧約聖書と新約聖書の論理的一貫性

- ①パリサイ派の信仰を旧約聖書の教えと思ってはならない。
- ②イエスは旧約聖書を成就するために来られたのである。

3. 7節

「エリサベツは不妊の女だったので、彼らには子がなく、ふたりとももう年をとっていた」

(1) 不妊の女の例

- ①アブラハムとサラ
- ②ヤコブとサラ
- ③サムソンの両親(マノアと無名)
- ④サムエルの両親(エルカナとハンナ)

(2) 年を取っていた。

- ①人間的希望がない状態
- ②これから起こることは、神の業である。

## II. 告知(8~20節)

はじめに(旧約聖書のパターンが見られる)

- ①天使の出現
- ②見た人の恐れ
- ③励ましの言葉(恐れるな)
- ④神からのメッセージ
- ⑤不信仰の言葉とするしの要求
- ⑥神からのしるし

### 1. 天使の出現(8~11節)

「さて、ザカリヤは、自分の組が当番で、神の御前に祭司の務めをしていたが、祭司職の習慣によって、くじを引いたところ、主の神殿に入って香をたくことになった。彼が香をたく間、大ぜいの民はみな、外で祈っていた。ところが、主の使いが彼に現れて、香壇の右に立った」

(1) くじが当たった。

①彼の生涯で最良の日となった。750人の中から選ばれた。

②くじは、神の御心を表現するものである。

③使1:26で、マッテヤが使徒に選ばれている。

④「神殿」とは、聖所のことである。

⑤祭司は、香の壇を掃除し、新しく香をたく。

⑥香は祈りの象徴である。

⑦外でイスラエルの民が祈っている。

\*個人的祈り

\*共同体としての、終末的祈り。メシア時代の到来を願う祈り。

⑧そして今、ゼカリヤがその祈りの頂点に立っている。

(2) 天使が現れた。

①これだけでも、恐れの原因になる。

## 2. 見た人の恐れ (12 節)

「これを見たザカリヤは不安を覚え、恐怖に襲われたが、」

(1) ユダヤ人にとっては、一般的な反応である。

①それ以上に、ユダヤ教の伝承の問題がある。

(2) 「香壇の右に立った」(11 節)

①レビ10:1~2

「さて、アロンの子ナダブとアビフは、おのおの自分の火皿を取り、その中に火を入れ、その上に香を盛り、主が彼らに命じなかった異なった火を【主】の前にささげた。すると、【主】の前から火が出て、彼らを焼き尽くし、彼らは【主】の前で死んだ」

②ユダヤ教の伝承の中で、裁きの天使は香壇の右に立つと言われていた。

## 3. 励ましの言葉 (恐れるな) (13 節 a)

「御使いは彼に言った。『こわがることはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです』」

(1) 良い知らせを持ってきたのだから、恐れなくてもいい。

(2) 願いが聞かれた。

①個人的願い (息子の誕生。昔祈った内容)

②公の願い (メシア時代の到来)

③この2つの願いが、ヨハネの誕生というひとつの出来事を通して聞かれる。

#### 4. 神からのメッセージ (13b~17節)

「あなたの妻エリサベツは男の子を産みます。名をヨハネとつけなさい。その子はあなたにとって喜びとなり楽しみとなり、多くの人もその誕生を喜びます。彼は主の御前にすぐれた者となるからです。彼は、ぶどう酒も強い酒も飲まず、まだ母の胎内にあるときから聖霊に満たされ、そしてイスラエルの多くの子らを、彼らの神である主に立ち返らせませす。彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、父たちの心を子どもたちに向けさせ、逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです」

(1) 老年になったエリサベツが息子を生む。

- ①神の介入が始まる。
- ②名をヨハネと付ける (ヤハウエは恵み深いという意味)。
- ③彼は、終末的喜びをもたらす。
- ④主の前にすぐれた者となる。後から誕生する者が、さらに偉大である。

(2) ヨハネの特徴

- ①ぶどう酒も強い酒も飲まない。
  - \*ナジル人のライフスタイル (民6:3)
- ②彼の伝えるメッセージの緊急性を示す。
  - \*エリヤのようなライフスタイルも目的は同じである。
- ③聖霊に満たされる。
  - \*母の胎内にあるときから
  - \*生涯この状態が続いた。

(3) ヨハネの働きの内容

- ①イスラエルの民を神である主に立ち返らせる。
- ②エリヤのような風貌と力 (聖霊による) で、奉仕をする。
- ③父たちが愛をもって子どもたちに関心を払うようになる。
- ④神に反抗する者たちに悔い改めを与える。
- ⑤メシア到来の準備をする。

#### 5. 不信仰の言葉としての要求 (18節)

「そこで、ザカリヤは御使いに言った。『私は何によってそれを知ることができましょうか。私ももう年寄りですし、妻も年をとっております』」

(1) 不信仰の言葉

①私も妻も、年を取っている。

(2) 何によってそれを知ることができるか。

①しるしの要求

②創15:8(カナンの地の約束)

「彼は申し上げた。『神、主よ。それが私の所有であることを、どのようにして知ることができましょうか』」

#### 6. 神からのしるし(19~20節)

「御使いは答えて言った。『私は神の御前に立つガブリエルです。あなたに話をし、この喜びのおとずれを伝えるように遣わされているのです。ですから、見なさい。これらのことが起こる日までは、あなたは、ものが言えず、話せなくなります。私のことばを信じなかったからです。私のことばは、その時が来れば実現します』」

(1) 権威の証明

①ガブリエルという名前を明かす。

\*一般の天使の中で、ガブリエルとミカエルのみ名前が知られている。

\*これ自体が、権威の証明である。

②神の御前に立つ

(2) 派遣の目的

①喜びのおとずれを伝える。

②終末的喜びである。

③ヨハネの誕生は、その始まりである。

(3) しるし

①ものが言えなくなること

②耳も聞こえなくなった(62節)。

③これは、叱責をともなった「しるし」である。

### III. 人々の驚き(21~23節)

#### 1. 21~22節

「人々はザカリヤを待っていたが、神殿であまり暇取るので不思議に思った。やがて彼は出て来たが、人々に話すことができなかった。それで、彼は神殿で幻を見たのだとわかっ

た。ザカリヤは、彼らに合図を続けるだけで、口がきけないままであった」

(1) 「不思議に思う」は、ギリシア語で「サウマゾウ」という動詞。

①奇跡を見て驚く時に使う動詞

(2) ザカリヤが出てきたが、話すことができなかった。

①祭司は、聖所から出ると祝福の祈りを捧げる。

\*民6:24~26

②それができないので、聖所で幻を見たのだと判断した。

③ザカリヤは身振りをするだけで、説明はできなかった。

## 2. 23節

「やがて、務めの期間が終わったので、彼は自分の家に帰った」

(1) 家はユダの山地にあった。

①現在のエンカレム。

②徒歩で半日くらいか。

## IV. 「約束」の成就 (24~25節)

### 1. 24~25節

「その後、妻エリサベツはみごもり、五か月の間引きこもって、こう言った。『主は、人中で私の恥を取り除こうと心にかけて、今、私をこのようにしてくださいました』」

(1) エリサベツは妊娠した。

①5ヶ月間ひきこもった。

②天使から聞いた内容は、家族内の秘密となっていた。

③エリサベツは、知っていた。

④この情報を最初に聞いたのは、マリアであろう。

(2) 不妊の女の喜び

①創30:23~24 (ラケルの喜び)

「彼女はみごもって男の子を産んだ。そして『神は私の汚名を取り去ってくださいました』と言って、その子をヨセフと名づけ、『【主】がもうひとりの子を私に加えてくださるように』と言った」

結論：

1. 歴史的枠組み

(1) ヨハネの誕生は、歴史的枠組みの中で成就した。

- ①「昔々」ではない。
- ②ルカは歴史家である。

(2) 時、場所、人を見てみよう。

- ①時は、ヘロデ大王の時代(前37～4年)である。
- ②場所は、エルサレムであり、神殿の中である。
- ③人は、老夫婦のザカリヤとエリサベツである。

2. 旧約聖書の成就

(1) 当時のユダヤ人の精神状態

- ①預言者がいなくなって、神は約400年間沈黙された。
- ②ユダヤ人たちは、律法と預言者たちの時代を懐かしんでいた。
- ③メシア時代の到来を待ち望んでいた。

(2) ザカリヤとエリサベツは、イスラエルの残れる者(レムナント)である。

- ①律法による義ではなく、信仰による義である。
- ②その結果、モーセの律法に信仰によって応答していた。
- ③彼らもまた罪人であるが、罪が覆われる方法を知っていた(いけにえ)。

(3) 神は、レムナントを用いて、メシア時代を歴史に導入された。

- ①私たちにも、希望がある。

3. 聖霊の働き

(1) バプテスマのヨハネは、聖霊に満たされていた。

- ①胎内にいる時から
- ②先駆者としての働きを推進する力

(2) 「聖霊に満たされる」とは、聖霊の支配に服していること。

- ①ペンテコステ以降の聖霊の働きは、より素晴らしいものとなった。
- ②聖霊のバプテスマ(キリストの教会の一員となっている)
- ③信者の心に内住される聖霊